



今後の学校生活に活かす

校長 平松 新太郎

5月25日（月）から27日（水）までの2泊3日で、6年生の日光移動教室を実施しました。

私は、初日の出発式で、「移動教室を楽しもう」という話をしました。この場合の「楽しむ」とは、「自分一人が楽しければよいということではなく、一人一人が役割を果たし、集団での宿泊行事を楽しもう」という意味です。

二日目の朝の集いでは、「一日目に頑張ったことを活かして、二日目はより深く考えて生活しよう」と伝えました。例えば、バスでの過ごし方や宿舎に到着してすぐに実施した避難訓練などで集中を欠く様子が見られ、そのことを担任から指摘されましたが、6年生一人一人がどうすべきだったかを考え、次の言動に活かすことができました。「この経験を活かして、二日目はより自分たちで考え、声を掛け合いどう振る舞うべきか考え、それを言動で示そう」と話をしました。

三日目の朝の集いは、「皆は最終日をどう過ごすべきか？」と尋ねる中で、「学年目標である『あきらめない・有言実行・みんな笑顔で』を大切にして、この3日間でどれだけ学年の絆を深められたかを意識して生活しよう。」と話をしました。

さらに閉校式では、「見えないことも察する努力を」という話をしました。「今回の移動教室は、添乗員さんやカメラマンさん、バスの運転手さんガイドさんなど、私たちの気付かないところでたくさんの方々に支えていただいた。そのことを改めて考えよう。」という話をしました。

ここで、移動教室中の児童と私のやりとりをいくつか紹介します。

戦場ヶ原を歩いている時、私が「今回スタートした湯滝とゴールの赤沼、どちらからスタートするかによって同じ道でも見える景色がまるで違うんだよ。」という話をすると、ある児童が、「それって人間も同じことが言えますね。」と言いました。正面から見るか背後から見るかで見え方は違うというだけでなく、同じ人のことを語るにも、その人との関係性によって捉え方は人それぞれ異なるという内容にまで発展しました。結論として「様々な視点で物事を見ることが大切だね。」という話になりました。

また、マス釣り体験では、焼き魚を食べ終わった後、再度、アユのいる池を眺めていると、ある児童が「さっきまでこうやって泳いでいた魚を私たちは食べたんですね。牛とか豚も同じなんですね。」と話を始めました。日光での三日間の食事を振り返り、多くの命をいただいていることを実感し、「いただきますやごちそうさまの意味合いは今後違ってくるよね。だから、挨拶は大切なんだよ。」と私は話をまとめました。

5年生は、6月14日・15日に赤城移動教室に行きます。1年生から4年生も今後、それぞれ遠足が行われます。移動教室や遠足には、普段の学校生活では得られない貴重な学びがたくさんあります。楽しかったというだけでなく、体験を通して知識や理解を深めるとともに、他者と協力することの意義や心地よさを実感してほしいと思います。

学年や学級での振り返りや評価だけでなく、教員と児童のちょっとしたやり取りの中にも様々な発見があります。児童も教員もこれら一つ一つを、今後の八小での生活に活かしていきます。